

*KUWA*

# 大学の国際化促進のためのURAとは ～雇用、育成、ネットワーク～

京都大学学術研究支援室  
杉原 忠

2016年9月1日(木) 15:00～16:30  
AOSSA6階 小会場B (研修室602) にて



# 本日のお話

1. イントロダクション
2. 国際関連業務を担当するURAの雇用
3. 採用後の教育、人材育成
4. 大学国際化に資するネットワーク形成
5. まとめ



# 1. イントロダクション

# 京都大学学術研究支援室設立までの歩み

## 学術研究支援室 設立までの歩み

*KURA*

2009

事業仕分け

11月 **RU11** 共同声明「大学の研究力と学術の未来を憂う」

2010

**RU11** 提言「国家の成長戦略として大学の研究  
・人材育成基盤の抜本的強化を」 3月

**文科省** リサーチ・アドミニストレーター（URA）を  
育成・確保するシステムの整備

2011

京都大学学術研究企画支援部 設置準備室設置

2012

京都大学部局URA配置開始

4月 京都大学学術研究支援室設置（8名）

2013

**文科省** 研究大学強化促進事業

2014

学術研究支援室増員（24名）

2015

2016

4月 京都大学URA50名体制開始



# 学術研究支援棟



# URA組織の誕生

第2次世界大戦中から、米国では**研究資金獲得**や**研究プログラム開発**のための専門組織が設立されはじめた

1941 Office of Science Research and Development (OSRD)

- contract
- purchase
- accounting
- reportingなど



これらの業務を担当できるよう科学者が自ら訓練を積んだ

1959 **NCURA: National Council of University Research Administrators**

1967 SRA: The Society of Research Administrators International

# 世界のURA関連団体

## 代表的なURA関連団体

- Australasian Research Management Society
- Association of Research Managers and Administrators
- Canadian Association of Research Administrators
- Danish Association of Research Managers and Administrators
- European Association of Research Managers and Administrators
- International Network of Research Management Societies
- Southern African Research and Innovation Management Association
- Society of Research Administrators International

# 日本のURA団体

日本にもURA団体が誕生した（2015）

リサーチ・アドミニストレーター協議会

## RA協議会第2回年次大会

2016.9.1<sup>受付開始</sup>09:00<sub>(木)</sub> ~ 9.2<sup>終了</sup>16:00<sub>(金)</sub>

開催場所：A O S S A 6F（福井市地域交流プラザ）  
8F（福井県県民ホール）

対 象：URA業務従事者、大学などの管理者、  
URAに関心のある方

Kyoto University Research Administration Office

KURA

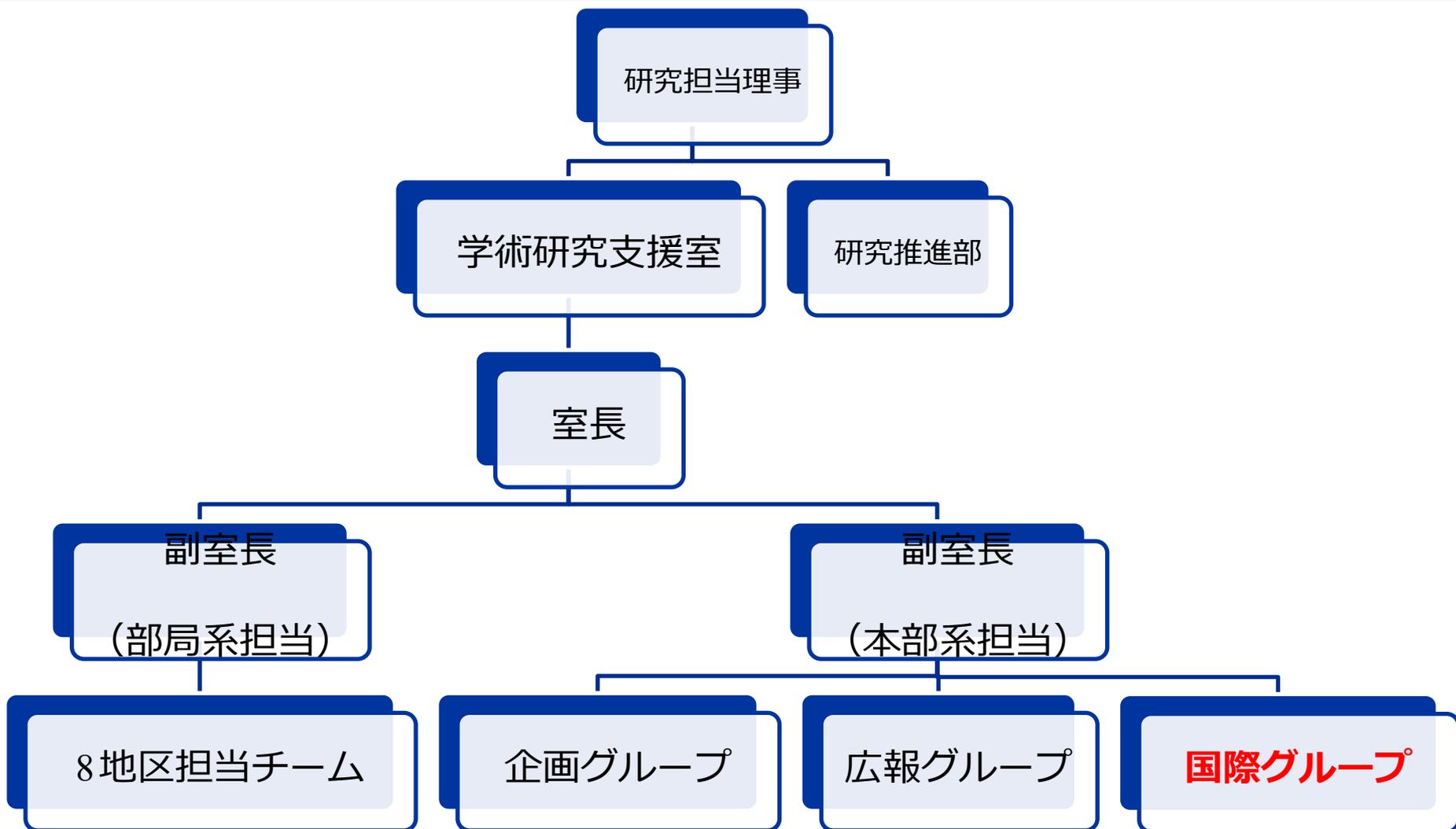
デザイナー奥村昭夫 作

奥村氏作品例

京都大学iPS細胞研究所・江崎グリコ・牛乳石鹸



# 京都大学学術研究支援室—組織図



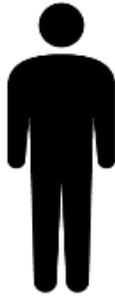
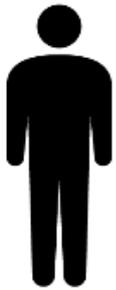
# KURA国際グループ～メンバー構成



グループリーダー



サブリーダー



# URA関連業務

(東京大学策定のURAスキル標準より)

研究戦略推進支援	Pre-award	Post-award	関連専門業務
政策情報等の調査分析	研究プロジェクト企画立案支援	研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整	教育プロジェクト支援
	外部資金情報収集	プロジェクトの進捗管理	国際連携支援
研究力の調査分析	研究プロジェクト企画のための内部折衝活動	プロジェクトの予算管理	産学連携支援
	研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整	プロジェクト評価対応関連	知財関連
研究戦略策定	申請資料作成支援	報告書作成	研究機関としての発信力強化推進
			研究広報関連
			イベント開催関連
			安全管理関連
			倫理・コンプライアンス関連

# KURAが行っているURA業務

研究戦略推進支援	Pre-award	Post-award	関連専門業務
政策情報等の調査分析	研究プロジェクト企画立案支援	研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整	教育プロジェクト支援 <b>国際連携支援</b>
	外部資金情報収集	プロジェクトの進捗管理	産学連携支援
研究力の調査分析	研究プロジェクト企画のための内部折衝活動	プロジェクトの予算管理	知財関連 研究機関としての発信力強化推進
	研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整	プロジェクト評価対応関連	研究広報関連
研究戦略策定	申請資料作成支援	報告書作成	イベント開催関連 安全管理関連 倫理・コンプライアンス関連

# 国際グループの業務≡国際に関する全業務

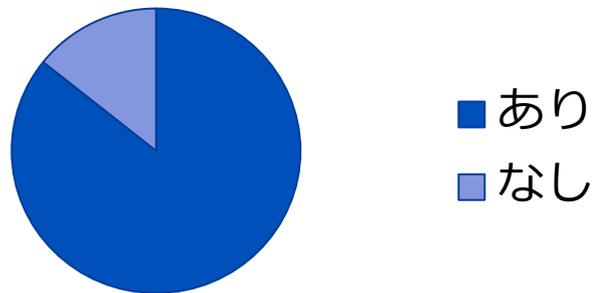


# KURA国際グループ～主要業務まとめ

研究戦略推進支援	Pre-award	Post-award	その他
国際化に係る政策情報等の調査分析	科研費、海外を含む大型公募事業等の説明会の企画、支援	研究成果のとりまとめ、ヒアリング（中間、最終報告）支援	海外共同研究ファンドの情報収集、提供
海外動向調査	外国人研究者の外部資金獲得申請支援	国内外広報・成果発信、シンポジウム等の企画、運営支援	海外オフィス活用による情報収集、海外大学との研究者交流、共同研究の促進
新規海外オフィス設置に資する分析業務	申請資料作成支援	後継資金獲得支援、後継プロジェクトへの継続的支援	海外大学・研究機関との学術交流協定（MOU）の戦略的提案及び締結支援

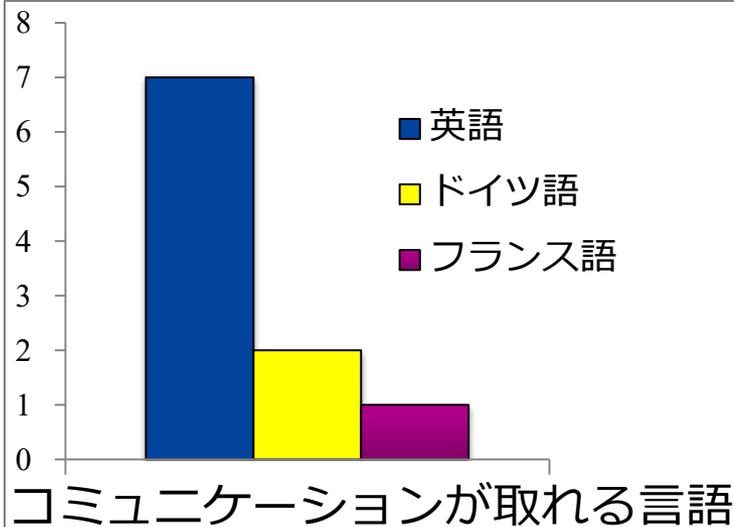
# KURA国際グループ (7名)

## 国際共同研究経験



## 1年以上滞在したことのある国

アメリカ	イタリア	オランダ
カナダ	タイ	ドイツ
トルコ	フランス	ルーマニア



その他の言語…タイ語、ロシア語など

## 国際Gメンバー以外の「国際的」なURAの一例



- アメリカで6年研究
- ドイツ、イスラエル研究者との研究交流

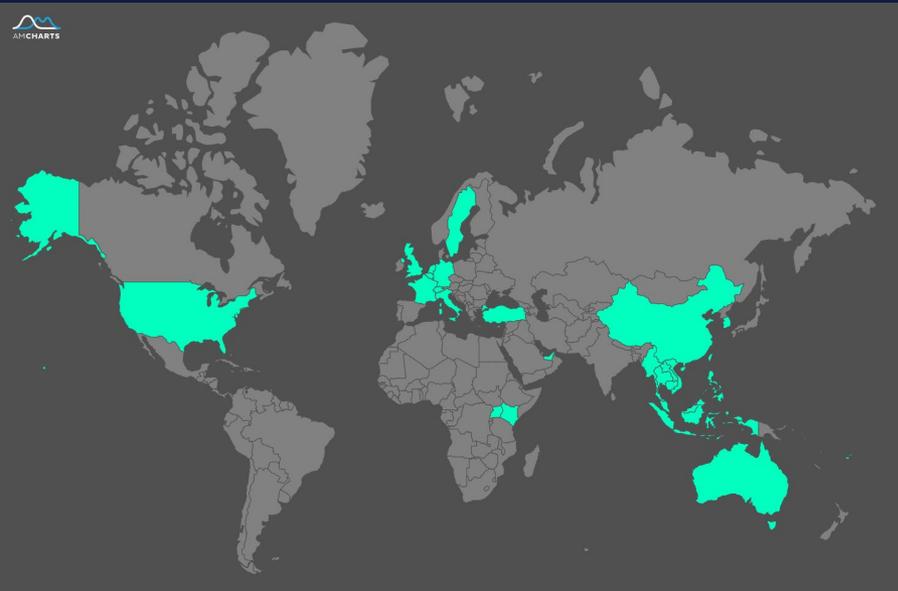


- デンマーク、スペインへの留学
- 英語、デンマーク語、スペイン語対応可



- 南米エクアドルへの留学
- 英語、スペイン語対応可

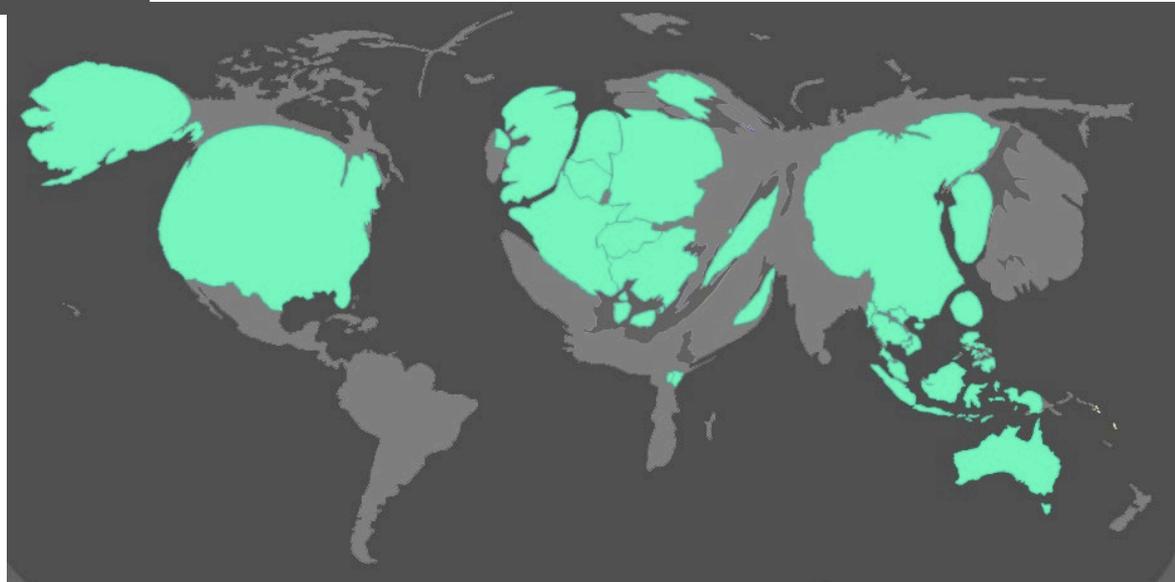
# URAが出張した国々を塗ってみました



GDPに比例して国の面積を補正

by Max Galka

<http://metrocosm.com/how-we-share-the-world/>



# ある国際グループURAの1日

7:45	子供を保育園に送る
8:25	オフィス着
9:00- 10:00	海外競争的研究資金への応募を検討中の教員からの質問対応
10:00- 10:30	国際グループ打合せ
10:30- 11:30	学術研究支援室による学内ファンド公募要領の文言修正
11:30- 12:00	メール対応
12:00- 13:00	みんなで集まって弁当
13:00- 15:00	大型の科研費ヒアリング審査支援のため、発表資料を編集
15:00- 15:30	国際交流課との定例連絡会議出席
15:30- 16:30	大型の科研費ヒアリング審査用発表資料完成、教員へ送付
16:30- 17:15	公募要項英文資料を読み、教員からの質問への回答をまとめる
	ここから残業
- 19:15	退勤



## 2. 国際関連業務を担当するURAの雇用

# どんな人材を必要とするのか？

同じ国際化支援のURAであっても、大学ごとに国際化レベルが異なる  
→ ウェイトが高い要素はさまざま

## A大学

**英語**

語学力重視

**フランス語**

**ドイツ語**

中国語

スペイン語

韓国語

イタリア語

## B大学

ビジネススキル重視 & 要語学力

**対人関係力**

概念化力

業務遂行力

↓  
**語学力**

既に強いスキルを活かし、不足部分は強化

*“Obvious to you,  
surprising to others”*



**Derek Sivers**

Programmer, writer, entrepreneur, avid student of life. I make useful things, and share what I learn.

不足分の強化 = OJTや育成カリキュラムを通じた訓練・教育

# 組織は生き物

- 組織において必要な人材は変化する
- URA人材は流動する
  - 組織内での役割の変化→グループ間異動
  - 他大学URA等への転職

# 人事担当者にとって重要なこと

短期的、長期的にどういう人材を必要とするのか、常に問い続ける



Career

Jobs

Talent

Strategy

Innovation

TRAINING &

DEVELOPMENT

Learn

Concept

Success

Goals

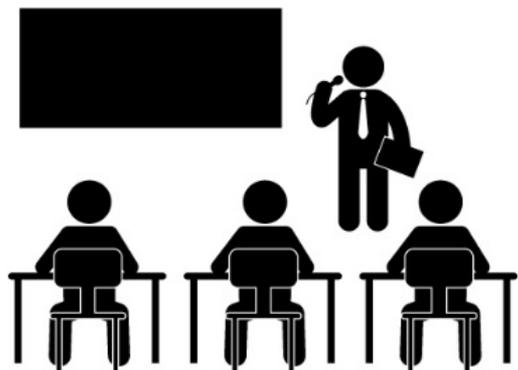
Employee



### 3. 採用後の教育、人材育成

## 能力開発機会の確保

- 京都大学URA能力開発プログラムの作成と実施
- 国内外のURA業務に関する研修会・勉強会への参加
- 中央省庁との人事交流 等



# 京都大学学術研究支援室の心意気

(注)誰の承認も取っていない杉原個人の意見です

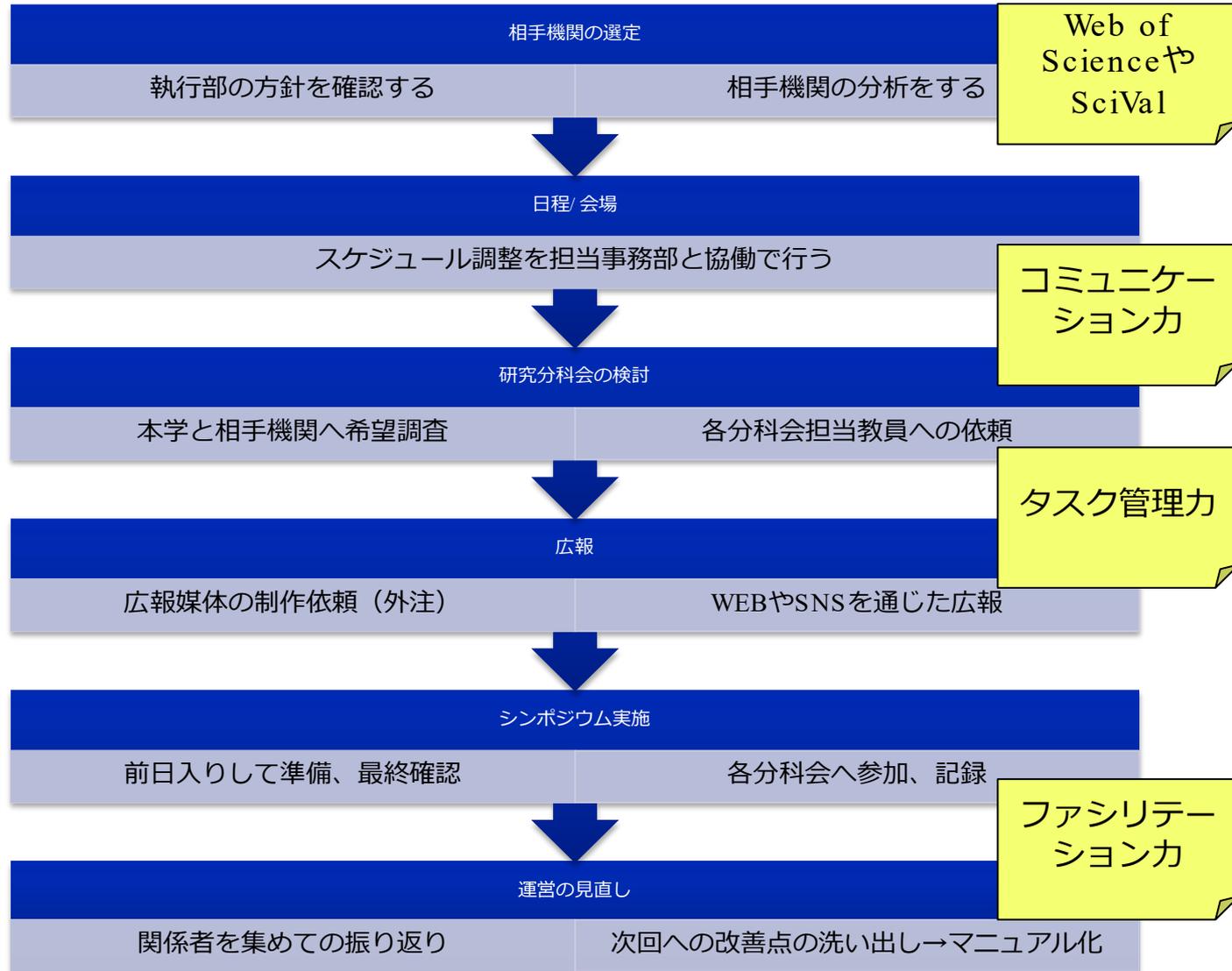
- Pioneer Work
  - 新しいことに挑戦する
- All Round and Complete
  - なんでもできる、完璧にできる
- Step by Step
  - 地道な努力を怠らない (good learner)



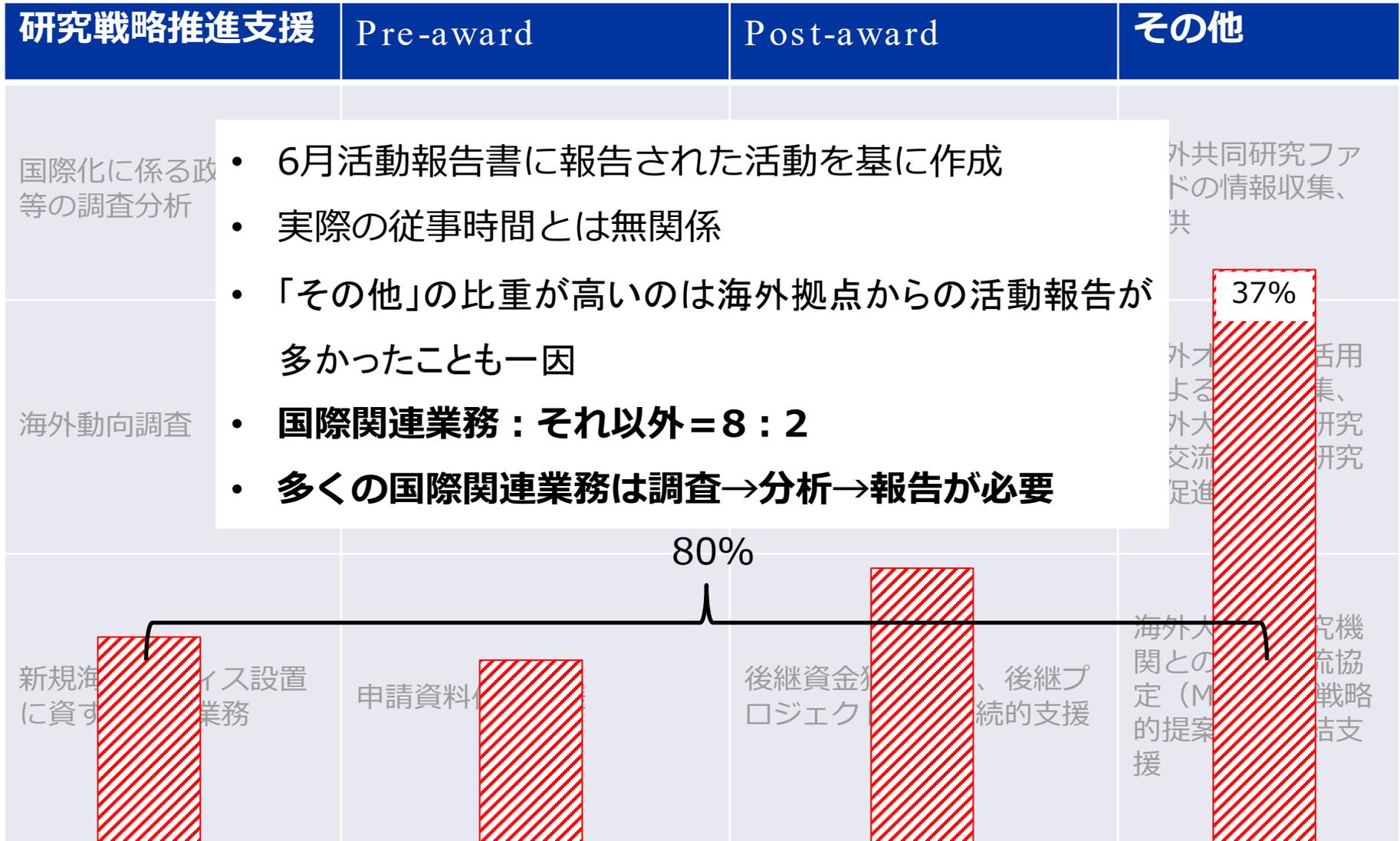
## 経験者が未経験者を指導する



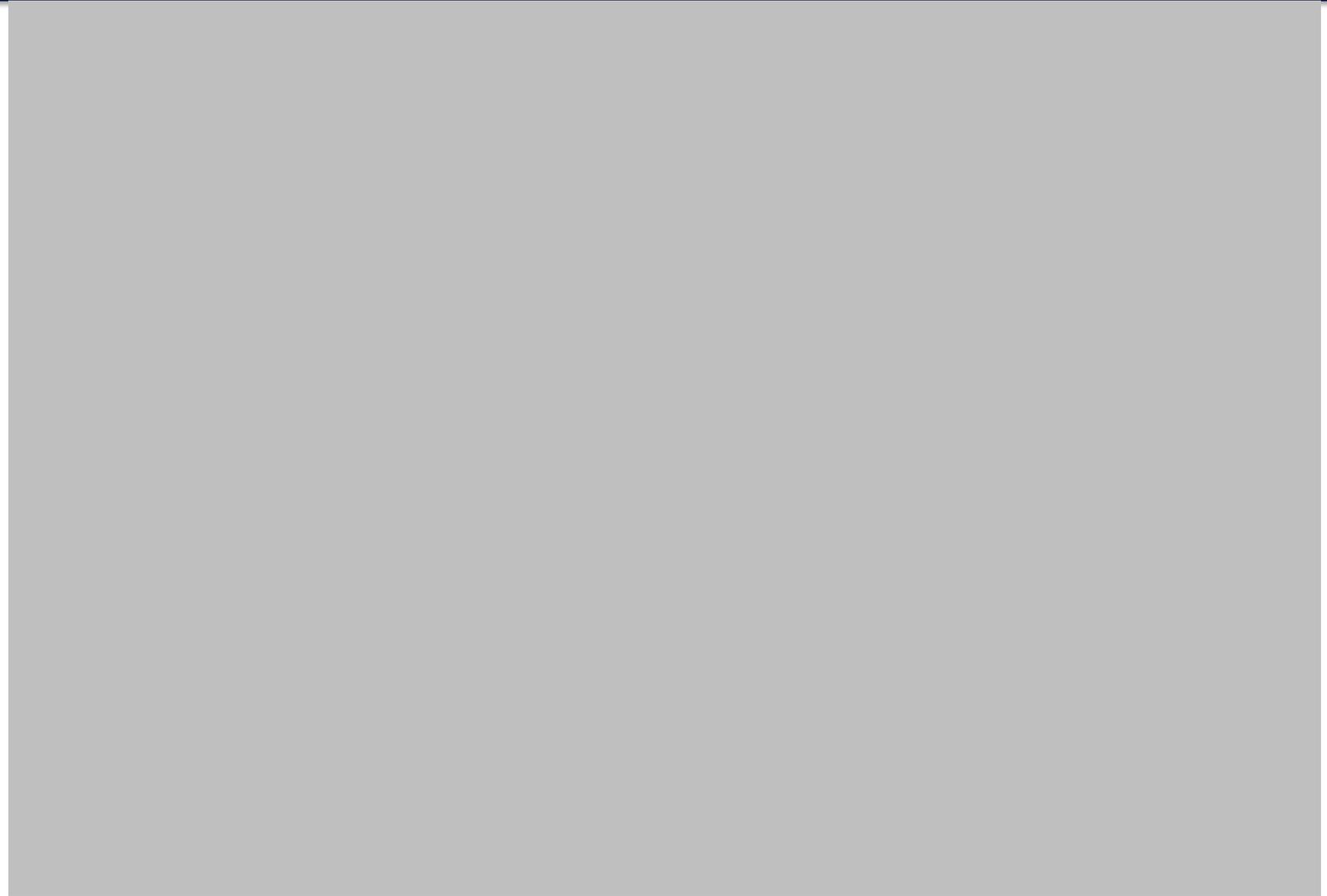
# On-the-Job Training (国際シンポジウムを例に)



# 各URAのエフォートから見えること (6月の活動)

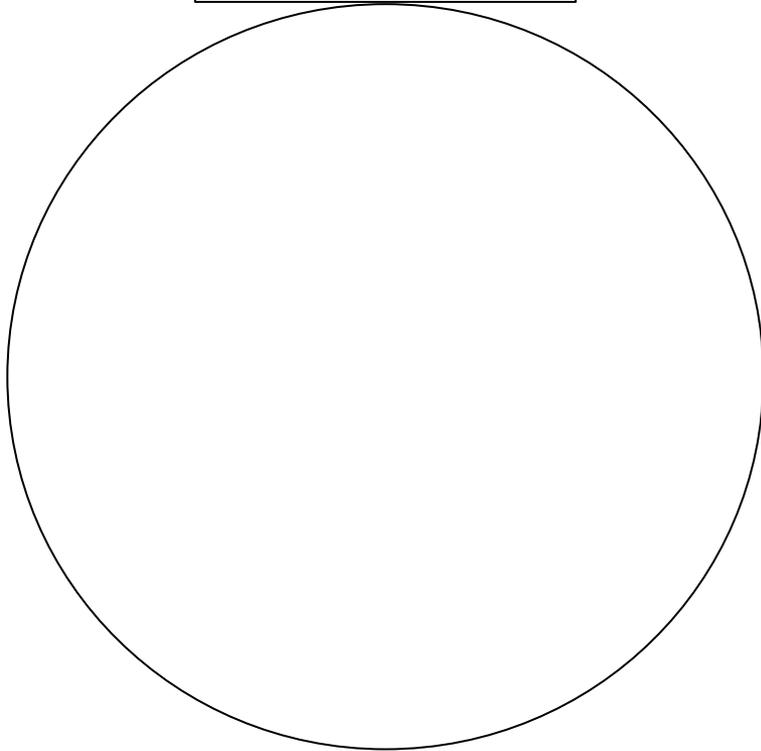


# 国際Gメンバーの「その他」の業務例

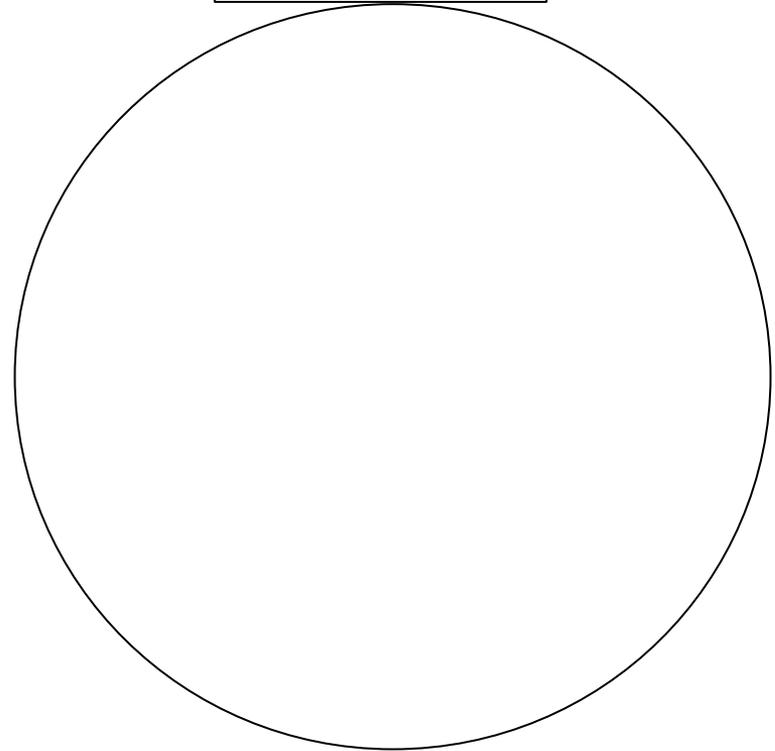


# 国際担当 ≠ 語学力

データ分析担当

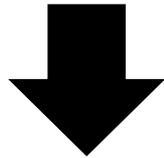


国際グループ



# 強みは錆び付かないように

- 語学力
- コミュニケーション力



- 海外出張
  - 海外URA関連学会
- 海外拠点オフィスの運営
  - ハイデルベルク（ドイツ）
  - バンコク（タイ）
  - 6ヶ月滞在





## 4. 国際化に資するネットワーク形成

# 海外URA組織訪問 (KURA創設時)



University of Bristol  
03/09/2012



UC Berkeley  
03/13/2012



Penn State  
03/14/2012



U Maryland  
03/15/2012

*KURA*

# NCURA AM54 (2012)



# 経験豊富なURAから学ぶ

## Kyoto University International URA Symposium

February 4, 2013

Keynote Speakers

**David Richardson**

**Penn State University**

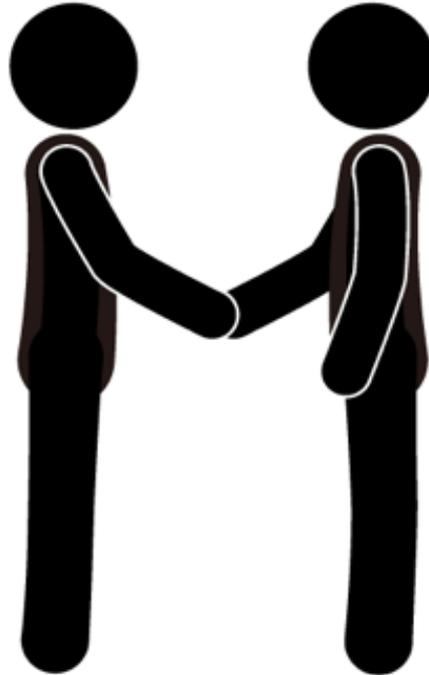
**David Langley**

**University of Bristol**



*URA*

# 経験の共有



# ネットワーク形成の 成果例

# スイス3大学とのシンポジウム

**November 21-22, 2013, Zürich**  
**Participants : 350 (112 from KU)**

**16 sessions**

Molecular and Cellular Basis of Development, Tissue Repair and Disease  
Magnetic Resonance  
Condensed Matter Physics  
Nanoelectronics and Nanophotonics  
Organic Chemistry and Materials Chemistry  
Product Development and Manufacturing  
Advanced Nano-/Biotechnology  
Energy  
Astrophysics  
AI and Robotics  
Natural Hazards and Disaster Prevention Research  
Virtual Ape  
Plant and Environment  
Finance and Risk  
Existentialismus heute  
Materials for Energy, Environment and Life

150  
Diplomatic Relations  
Switzerland-Japan  
日本・スイス国交樹立



Kyoto University



ETH Zürich



University of Zürich



EPFL



# ブリストル大学とのシンポジウム

**January 9-10, 2014, Kyoto**

**Participants : 240 (60 from Bristol)**

## 13 sessions

Physical Chemistry and Materials Chemistry

Nano-science

Nuclear Material

Robotics and Human Machine Interaction

Intimacy and the Public Sphere

Political transformation in Southeast Asia

Economy theory

English Literature / Colonialism / Philosophy • Logic

Natural Hazards and Risks

Nano-photonics

Plant Sciences

Neuroscience

Technology Transfer and Innovation



京都大学  
KYOTO UNIVERSITY



University of  
BRISTOL

*KURA*

# 3つの海外オフィス、49カ国 地域との大学間学術交流協定

## 3オフィス

ロンドン  
ハイデルベルク  
バンコク

University of Bristol  
University of Oxford  
University of Cambridge  
Imperial College London  
University College of London

University of Heidelberg  
ETH Zürich,  
University of Zürich  
EPFL

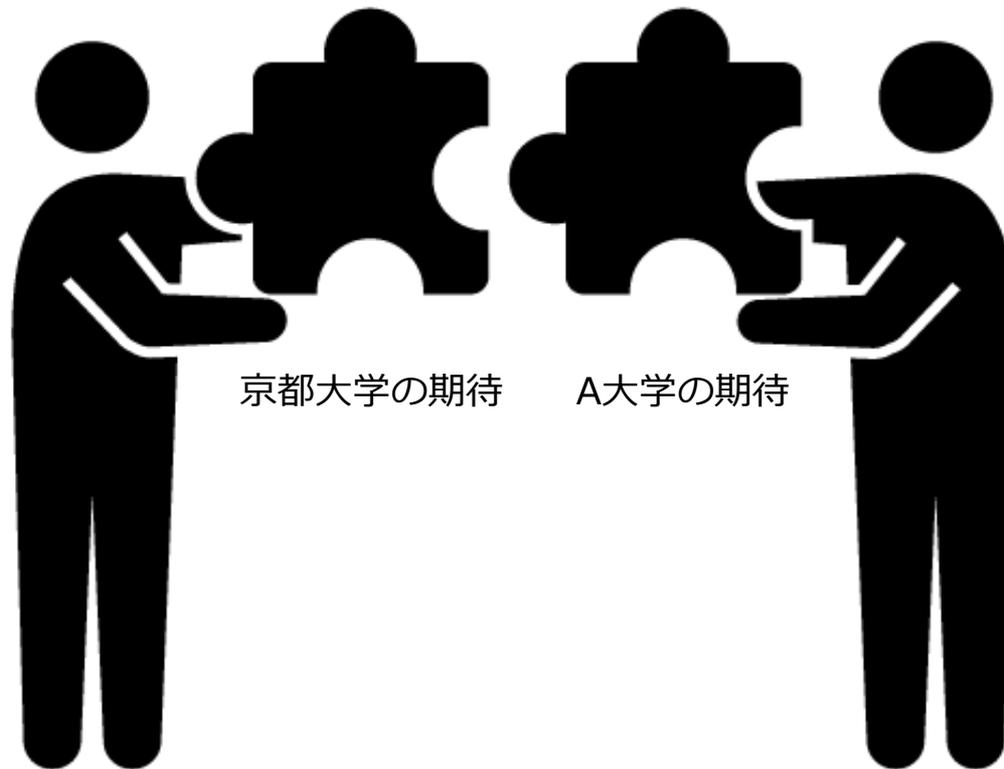
National University Singapore  
Nanyang Technological University  
National Taiwan University  
Hong Kong University of Science and Technology  
King Mongkut's University of Technology  
Mahidol University  
Kasetsart University

University of California, Berkley  
Penn State University  
University of Maryland  
Johns Hopkins University

University of Queensland  
University of Western Australia  
University of Melbourne

Copyright (C) T-worldatlas All Rights Reserved.

# 要確認！ お互いの期待がマッチしているか？



# ネットワークは必要なときに使えるように

- ネットワーク形成への投資
  - 常に水を与える

国外諸機関とのネットワーク

～海外URA関連学会など

国内諸機関とのネットワーク

～RA協議会など

# ネットワークは必要なときに使えるように

## NCURA AM58 (2016)...参加者数1752名

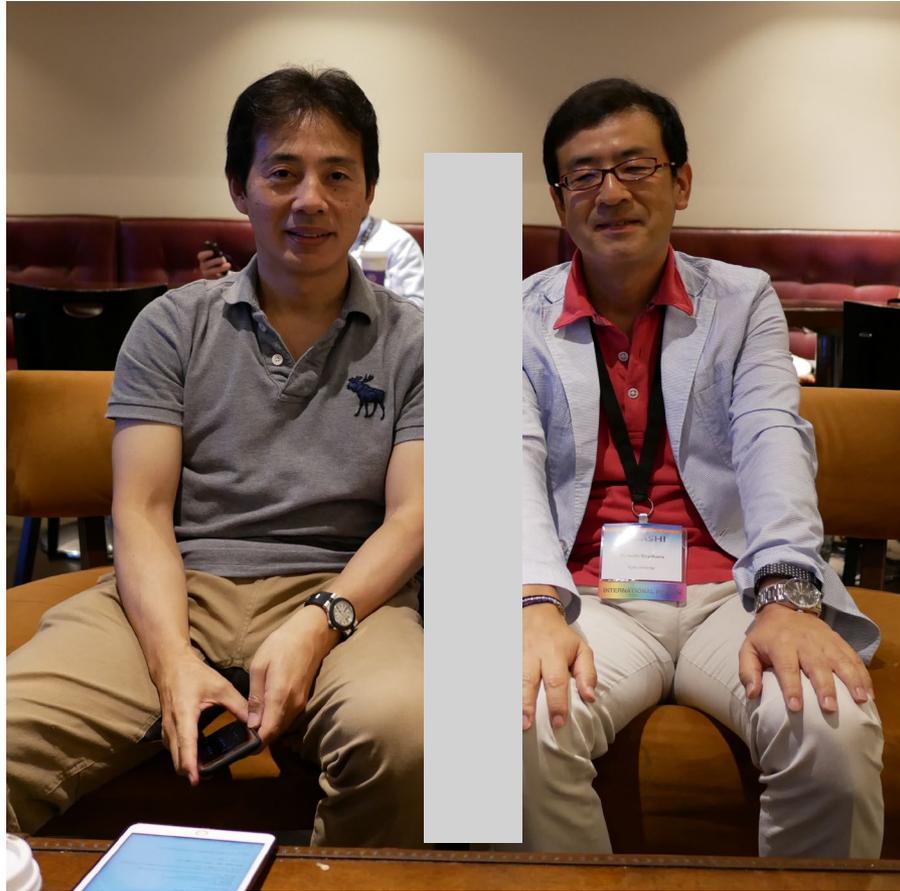


KURAメンバーによる発表3件 + webinar講師1件

- 244視聴登録
- 193機関
- 35カ国 地域

# アメリカで出会うと生の声が聞けたりする

## NCURA AM58 (2016)



首都大学東京桜井部長と

A group of seven business professionals in silhouette stands on a reflective floor. Behind them is a large world map against a blue sky with clouds. A bright sun is positioned behind the group, creating a lens flare effect. The overall scene conveys a sense of global business and teamwork.

# 5. まとめ

# 国際関連業務を担当するURAの雇用

- 語学力×コミュニケーション力 は必須
- コミュニケーション力はURAとして必須
  - 外国語が話せても「対話」ができないとダメ
  - 相手の目線でものごとを考える能力が必要
  - 国際関連ではさらに「文化」の理解が重要

# 採用後の教育、人材育成

- 強みは錆び付かないように
  - スキルアップ
    - 語学力
    - コミュニケーション力
- 不足しているものは補う
  - スキルアップ
    - 例 ■海外機関との契約文書作成
    - データ分析
- OJTと独自のカリキュラム

# 大学国際化に資するネットワーク形成

- ネットワーク形成への投資
  - 常に水を与える（ネットワークを枯らさない）
- 国内ネットワークの形成
  - 誰に聞けば良いか？知っておく
  - 普段から課題について話し合う

- 各URA組織が狙う国際化の実現を支援できる人材を確保し、長期的な視点に立って育成する

# 学術研究支援室の活動の詳細は

<http://www.kura.kyoto-u.ac.jp/>  
「最新情報」をご覧ください



検索：京大 KURA

特に国際関連業務については

<http://www.oc.kyoto-u.ac.jp/>  
をご覧ください

# これから公募するURAポスト

2017年4月1日採用  
理工系、生命医薬系担当URA  
をこれから募集します

<http://www.kura.kyoto-u.ac.jp/recruit/>

※前回の公募要項が掲載されています

